

平成 17 年度中部環境パートナーシップオフィス

運営業務報告書（9 月期）

特定非営利活動法人 ボランティアネイバース

〈平成17年度9月期 事業報告書〉

本報告書は、平成17年度9月1日から30日にかけて中部環境パートナーシップオフィスが実施した事業内容を報告するものである。

【平成17年度9月期事業概要】

平成17年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務（9月期）仕様書に指定された業務は以下の4項目である。

- (1) 維持管理業務
- (2) 中部オフィス広報業務
- (3) 環境情報の受発信業務
- (4) その他業務

【業務報告】

(1) 維持管理業務：中部環境パートナーシップオフィス（以下EPO中部）の適切な運営体制、施設の維持管理

仕様書に準拠し、以下のように設定した。

- ① 開館日時 原則火曜日～土曜日 10:00～17:00
日・月曜日及び祝日、旧盆・年末年始は閉館

- ② 職員

業務円滑のため、常勤職員2名、非常勤職員1名のうち、2名体制で業務を実施した。特定非営利活動法人ボランティアネイバーズの職員が業務のサポートをした。

- ③ 実施業務

○案内業務

- 1) 来館受付、案内・説明、電話対応
- 2) 施設利用者数の確認
- 3) パネル・パンフレット及び図書の整理・補充、ポスター掲示
 - ・必要に応じ随時実施（開館時間内は、常時対応できる体制を確保）
 - ・日々確認して記帳整理
 - ・必要に応じ随時実施

○中部環境パートナーシップオフィス 月報

9 月		来館者数 (相談・問合せ)	電話による相談・ 問合せ	相談・問合せ内容	スタッフ 数
1	木	8 (1)	0	・エコツアーに関する相談	2
2	金	6 (1)	0	・EPO中部についての質問	2
3	土	0 (0)	0		2
4	日				
5	月				
6	火	11 (0)	0		3
7	水	4 (0)	0		2
8	木	15 (0)	0		3
9	金	9 (0)	0		2
10	土	0 (0)	0		2
11	日				
12	月				
13	火	2 (0)	0		3
14	水	11 (1)	0	・環境活動の参考となる資料としてパンフレットの閲覧	2
15	木	1 (0)	0		2
16	金	8 (0)	0		3
17	土	9 (0)	0		2
18	日				
19	月				
20	火	7 (0)	0		2
21	水	30 (0)	0		3
22	木	6 (0)	0		3
23	金				
24	土	0 (0)	0		2
25	日				
26	月				
27	火	5 (1)	2	・環境省と名古屋市が実施する生ごみ有機リサイクルに関する検討会の問い合わせ ・企業とNPOの環境パートナーシップ事例についてのお問い合わせ	3
28	水	5 (0)	0		3
29	木				
30	金				
		137(4) 7/1日	2		46

(2) EPO中部広報業務

① EPO中部リーフレット作成（リーフレット添付）

EPO中部の事業目的、内容を広く広報するためのリーフレットの作成。

A4三つ折フルカラー 2000部製作

② 封筒の作成（現物添付）

長形3号 2000枚

角型2号 1000枚

(3) 環境情報の受発信業務

① EPO中部ホームページの製作・開設（ホームページ原稿添付）

- ② 地球環境パートナーシッププラザ・環境パートナーシップオフィスへの出張
きんき環境館、EPOちゅうごく視察

EPO連絡会議 出張報告

日時：2005年9月9日（金）11：00－13：00

場所：地球環境パートナーシッププラザ会議室

参加者：EPO中部・大西 EPOちゅうごく・松尾・福本 きんき環境館・広田
EPO/GEIC 滝口・有田（環境省） 川村・須藤・星野・小島・平・伊藤
池田（国連大学）、塩原（千葉NPOセンター・インターン）

出張者・報告者：大西光夫

●連絡会議の内容

1) 近況報告：

機関紙発行を2地区とも開始。中国1000部、近畿10000部。A4／8頁

2) 環境基本計画意見交換会、環境省ブリーフィングの件

表記会合が東京で開催されているが、開催手法など（開催時期、時間帯、ねらい・対象者 など）、この地域開催についての意見交換をした。

結論：環境省と地域EPOで具体的に意見交換を開始する。近々に連絡がある。

3) 個人情報保護に関して意見交換

契約業務の性格によって、法の適用が違う。（GEICと地域EPO）

中部の対応策：地域の担当官事務所と早速打ち合わせる必要あり。

EPOちゅうごくは、「民間団体としての法の適用」。GEICは、(財)日本環境協会の業務一部と解釈。

* 参考資料（GEIC作成議事録）

日時：2005年9月13日（火）14：00－17：00

場所：きんき環境館

参加者：きんき環境館 谷川氏

近畿地区環境対策調査官事務所 麻生所長 寺西氏

大阪自然環境保全協会 岡氏 堺野鳥の会 清水氏

EPO中部 新海 桜井

報告者：新海洋子

●きんき環境館の特徴

- *近畿地区で力のある人の力を巻き込み、今できることをする
- *限られたスタッフと予算の中で、事業を絞って実施する

●事業内容

仕様書には事業として、ゼミナール4回、タウンミーティング2回の実施を明記。

1) 環境パートナーシップの担い手充実（人材育成）

環境省の施設という点を活かして、自治体職員の研修（人材育成講座）を行っている。対象は、はじめて環境部署に配属された自治体職員としている。連続講座を予定していたが、現在は単発で実施。試行錯誤しながら、講座内容を決めている。

事業内容は、運営委員会のアドバイスや提案を受けながら実施。5月・8月・9月に実施し、30人くらいの参加を得ている。2府4県、市町村 276自治体あるので、約1割が参加している。

事業者を対象にした事業は予定していない。現在は体制的に事業者を対象にするのは無理だと判断している。将来的には検討していく。また事業者の情報を収集している施設が近隣にあるので、あえてきんき環境館では事業者を対象にした事業の必要性を今は感じていない。

NPOに関しても、NPO自身が人材育成を実施するノウハウをもっている所以对象としていない。案内は出しているが、できる範囲での告知にしている。

2) 意見交換の場づくり（タウンミーティング）

6月に大阪、9月に和歌山で実施。

各地域の意見の吸い上げをしている。各地域の運営委員が中心となって、地域の出身母体が相乗り実施できる事業を展開する。あくまでも地域主導である。

3) パートナーシップ団体

「パートナーシップ団体の集い」を9月に実施。地域でのパートナーシップの促進、ひろげるためのしくみとして、「パートナーシップ団体」の登録を実施している。パートナーシップ団体と事業を協働で実施したり、情報交換、インキュベート機能などを展開。パートナーシップ団体と支えあって、環境省という冠を生かした事業を展開していく。

また、地球温暖化防止をテーマに、地方との関係づくりをすすめていきたいと考えている。

4) 環境情報受発信

ホームページなどにパートナーシップのフィルターをかけて情報を提供している。情報センター機能にエネルギーをさくのではなく、特徴のある情報を絞って提供していく。各地域の環境情報センターは充実した機能をもっているため、重複した役割とならないようにしている。

パートナーシップ事例の紹介はしていきたい。しかし、事例をどのように伝えていくのか、ニーズ、還元を思考しながらプレ調査という位置づけで紹介していきたい。役立つのは、失敗事例や事例のプロセスであるので、プロセスの履歴や結果をどのように出していけるのかを考えている。

●オープニングイベントについて

座長である高月氏の基調講演と、地域で影響力のある方々の活動事例紹介を踏まえたパネルディスカッションを実施。参加者は自治体職員1/3、NPO2/3。予算120万円

●運営委員会について

地域の総意を把握している人（運営委員）の提案を反映し、事業を組み立てている。運営委員会は現在年4回を予定。アドバイザーおよび評価をしていただく存在。1年目はとにかく事業を実施して動きをつくりながら、評価をしていただき、EPOの役割、事業のチェックをしていく。

●施設について

月曜日が休館日。来館者は一桁だったが少しずつ増えてきた。来館者を増やすことにエネルギーをさこうとは思っていない。あくまでもオフィス機能で、地域に出張っていく事業が中心。ただし、パートナーシップに関する資料や情報は充実させ、調べに来てもらえるようにしたい。基本はオープンスペースで自由に利用していただけるようになっている。打ち合わせなどにも利用されている。エコライフフェアなどを実施し、きんき環境館のPRはしている。

●地域が期待していること

運営委員の期待がイコール地域の期待であると理解している。その期待は、団体間のコーディネート機能をどう果たすかだと思う。また、環境省の冠を使ってできること、上がってきていない声に耳を傾けること、広域レベルで活動意欲のある人たちに対するサポートなどである。少しひろがりをもって活動をしたいという団体にできることをしていきたい。単体のNPOがしないことを実施する。

●現状について

環境パートナーシップは、1年2年でできるものではない、地域の人々とスタッフ、周りの環境、相手のかかわりなど相乗効果で高まっていくものである。パートナーシップ団体の利用をメインにしながら、パートナーシップの促進に利用される拠点になりたい。なぜなら、地域を構成する団体が強くなれば、地域の環境は変わる。そのためにも行政の支援が必要。そのために、職員が環境問題への理解を深める場をつくっていく。

●谷川氏インタビュー

学生時代に、パートナーシップ・「中間支援組織」の研究をしていた。環境分野、サポートする仕事に携われて非常におもしろい。以前は、大阪自然協会の事務局にいた。環境NPOと中間支援組織を経験でき、

一粒で2度おいしいという感じ。いろいろなものに関心を持ち、いろいろなところが見られる。個人の思いもあるけど、いろいろな思いを受け止めて、自分なりに色づけていくことがおもしろい。やろうと思うときりがなく、処置なしの状況になる。きびしいなりにいろいろな人とのつきあいがあり、やりがいがある。



○きんぎ環境館

天満橋の有名オフィスビルの5階にあります。



○ ヒアリングの様子

左手手前から谷川氏 所長、寺西氏、清水氏
右手奥 岡氏 新海



○きんぎ環境館フリースペース

- ・巨大テレビ
- ・インキュベーターボックス
- ・印刷機・PCなど設備充実



○スタッフ 廣田氏と宮本氏

EPOちゅうごく 視察報告

日時：2005年9月15日（金）13：00－17：00

場所：EPO中国

参加者：EPO中国 松尾氏

中国地区環境対策調査官事務所 恵良氏

報告者：新海洋子

●CREIC整備検討会（中国地区環境情報センター整備検討会）

中国地方では、環境情報拠点がないという状況のなか、その必要性を感じていた広島を中心とした民間のメンバーが、ワークショップ「みんなでつくろう！環境情報拠点」を2003年5月より実施した。3回のワークショップのあと、「CREIC整備検討会」準備会を立ち上げ、「CREIC整備検討会」を同年8月に立ち上げた。40名近くのメンバーで、幹事会、運営部会、情報部会、事業部会に分かれ議論を重ね、2004年3月31日に環境省中国地区環境対策調査官事務所に「CREIC整備検討会報告書」を提出した。

●特定非営利活動法人「ちゅうごく環境ネット」

CREIC整備検討会のメンバーを中心に設立した。「中国地区の環境」という幅広いキーワードで、それぞれの持つ知恵や人を活用するためのネットワーク団体。（2004年4月に任意団体として設立、同年8月にNPO法人化）

●EPOちゅうごく

NPO法人ちゅうごく環境ネットが中心となって国やさまざまな主体との協働によって運営。

〈基本方針〉

- 1) さまざまな主体や拠点をつなぐ
- 2) 市民との協働の視点にもとづく運営
- 3) 地域資源の有効

〈事業内容〉

- 1) パートナーシップの促進
- 2) 情報収集、提供、発信
- 3) 地域活動（NPO活動）の支援

〈施設内用〉

1) フリースペース

NPO活動のためにミーティングや資料の閲覧、20－30人程度までの小規模セミナーなどに提供する多目的スペース。休憩用畳スペース、会議用の茶器・ポットなども利用できる。

2) 視聴覚・書籍資料スペース

パソコンなどを設置し、ウェブ上の情報やDVDなどの資料を活用できる。一般書籍、関係機関報告書、寄贈図書、地域出版物の収集により気軽に利用できる情報コーナーの整備を進める。

3) 企画展示・展示発表コーナー

環境問題やパートナーシップについての企画展示を実施。

4) ホームページ

EPOちゅうごくのオリジナルホームページを通じて、環境パートナーシップ関連情報の提供や情報交換の実施。

○運営体制

開館時間 9:30-19:00 常勤スタッフ3名 水曜日と土曜日が休み 日曜日は開館だが理事が担当

○運営検討委員会：年1回実施

鳥取1名：広島6名：島根1名：山口1名：岡山1名 計10名

(内学識経験者1名：国土交通省1名：島根県1名：企業3名：NPO4名)

環境対策調査官事務所4名・NPO法人ちゅうごく法人環境ネット4名

●2004年度事業概要(2005年1月4日-3月31日)

1) 情報センター業務

一般書籍・雑誌など：184冊 報告書など：297冊 ビデオ75本
CD-ROM・DVDなど35本 パンフレットなど108種

2) 拠点業務

開設シンポジウム「広がれパートナーシップー中国地域から環境を考える」の実施

2005年1月22日(13:00-18:00) 参加者212人 予算130万円

同日に、EPOちゅうごく開設記念見学会の実施

① 活動家向け研修会へのプログラム提供「地域で取り組む地球温暖化防止」の実施

2005年2月11日(9:00-11:40) 参加者50人

② 公開セミナー「持続可能な社会について考えよう」の実施

2005年3月21日(13:00-18:00) 参加者32人

③ 企画展示の開催「エコバッグと買い物持参運動」の実施

2005年3月24日-4月26日

・企画展示の開催：9展示(NPO：7 事業者：2)

・ホームページアクセス：26,114件 378件/日

3) 助言・相談業務

開館日数：47日 来館者数(合計)：290人 来館1日平均：6.2人

来館外対応(合計)：45人

4) 中国環境パートナーシップオフィスの維持・管理

5) 運営検討委員会(仮称)の開催

2005年3月2日(15:00-17:00) 9名 オブザーバー9名参加

●2005年度事業概要(2005年4月1日-5月31日)

1) パートナーシップ推進業務

○環境サロンの実施 5月8日(17:00-19:00) 参加者28名 参加費300円徴収

〈今後の事業の検討〉

- ①メインシンポジウム（2005年8月8日） 参加者：150名
- ②環境教育シンポジウム「みんなが主役の環境教育」（日立環境財団）（2005年11月13日）
参加募集人数 120名 予算 210万円
- ③環境サロン 奇数月第2日曜日 17：00－19：00
第2回（7月10日） 宮島・西中国山地の生き物たち
第3回（9月11日） 環境に人に優しい衣服素材
第4回（11月20日）取材を通して見た中国地域の環境

○パートナーシップ形成推進などに関わる人材育成

- ①インターンシップ受け入れ事業（NPO法人ひろしまNPOセンターなどと連携）
- ②親子環境講座（夏休み） 参加定員 20名

2) 情報センター業務

機関紙の発行の検討：A48ページで作成予定
環境活動展示の開催：6団体

3) 地域活動支援業務

開館日数：41日 来館者数：504人 来館者1日平均：12.3人
来館外対応（電話・ファックス・メール）32件 ホームページアクセス1日49件

○NPO活動の基盤強化

ESD@HIROSHIMA月例会 5月27日（18：30－21：30） 参加者 18名

4) 中国環境パートナーシップオフィスの維持・管理

個人情報保護取扱規則の策定
中国環境パートナーシップオフィス運営検討委員会の開催準備

●2005年度事業概要（2005年6月1日－7月31日）

1) パートナーシップ推進業務

環境サロン（第2回）の実施 7月10日 17：00－19：00 参加者 16名
メインシンポジウム検討
環境教育シンポジウム「みんなが主役の環境教育」調整
環境サロン（第3回・4回・特別編）の計画・準備
インターンシップ受け入れ事業の準備
親子環境講座「EPOちゅうごくジュニア環境講座」の準備・調整

2) 情報センター業務

環境活動展示の開催 8団体

3) 地域活動支援業務

開館日数：42日 来館者数：593人 来館者1日平均：14.1人

来所外対応 47人 ホームページアクセス 1日49件

●ヒアリングまとめ

- 緊張関係をもちつつ、環境省と受託団体の協働のありかたを模索している。もち屋はもち屋で、それぞれの特性をいかした事業展開をしている。1年1年勝負と決めて、必要な事業を決めて進めている。現在は百貨店を目指している。近畿や東京、名古屋に比べて情報も人材も少ないので、情報や人が集まる拠点を目指している。
- 運営委員会の委員の委嘱はちゅうごく環境ネットが担い、開催費用も委託事業費からでている。地域の意見を最大限出してもらおう場として設定。任期は3ケ年。年1回の開催。運営についての内容・目的・予算の検討、環境教育保全活動の拠点であるかを評価・助言する。意思決定機関ではない。
- 情報センターの主な対象は広島市民である。各地域のイベントにはでかけて、パネルをだすなどEPOちゅうごくのPRしている。
- 1年目は、NPO法人、任意団体の取り組みをピックアップしていろいろな団体がパートナーシップを組めるように活動を把握することが目的である。またそういった団体に情報を提供していくことを主に実施する。

●松尾氏インタビュー

GEICでの研修を受けたこともないし、大学で環境を専門分野として学んだわけではない。たまたま環境省のパークレンジャーをしていて、整備検討委員会に入っていたため、職業としてEPOちゅうごくに参画。人と人をつなぐ仕事はそれなりにはおもしろい。今となってはやるしかない状況である。

●恵良氏インタビュー

NPOと仕事をするのは初めてである。最初は身なりにびっくりした。そして、NPOの人たちの仕事は1+1=2ではなく、3、4にもなる。これまでは1+1=2といった誤差のない常識にもとづいた仕事をしていたので、不安な面もあった。また「やってみないとわからない」状況の仕事が多く、いかに保険を担保するかがいつも論点となる。しかし協働は、足らずのところを足す、補完性、柔軟性にもとづくものなので、議論を交わしながらすすめている。



○ EPOちゅうごくの書籍コーナー



○ 自慢のたたみコーナー



○ スタッフルーム



○ 環境省 恵良氏
EPOちゅうごく責任者 松尾氏

④ 中部地区の環境関連団体の基礎資料の収集、管理

* 9月期に収集した資料 行政関連：3種 企業関連：11種 NPO関連：4種 ほか：6種 計：24

タイトル	年度	発行	備考
東邦ガス環境レポート 2005 私たちの 思いが、届きますように…	2005	東邦ガス株式会社 環境部	A4 54P 日本語 2005.8 発行
なんか変だがや！ ～気候の危機を考える～	2005	「フォーラム 気候の危機」 シンポジウム愛知事務所 (社)環境創造研究センター	A4 1P 日本語 2005 発行
環境問題に関するスペシャリスト それ が「環境カウンセラー」です。		環境省総合環境政策局 環境教育推進室	A4 6P 日本語
ASIA・PACIFIC：JAPAN+ August 2005 PERSPECTIVES	2005	社団法人時事画報社	A4 48P 英語 2005.8.1 発行
ASIA・PACIFIC：JAPAN+ September 2005 PERSPECTIVES	2005	社団法人時事画報社	A4 4P 英語 2005.9.1 発行
ASIA・PACIFIC：JAPAN+ October 2005 PERSPECTIVES	2005	社団法人時事画報社	A4 48P 英語 2005.10.1 発行
Cabi ネット 9.15	2005	社団法人時事画報社/ 内閣府政府広報室	A4 50P 日本語 2005.9.15 発行
Cabi ネット 8.15	2005	社団法人時事画報社/ 内閣府政府広報室	A4 50P 日本語 2005.8.15 発行
Cabi ネット 9.01	2005	社団法人時事画報社/ 内閣府政府広報室	A4 50P 日本語 2005.9.15 発行
椅子の森 in オズモール	2005. 9.24 9.25	地域国際活動研究センター	A4 1P 2005 発行
トヨタ自動車株式会社 Environmental & Social Report 2005	2005	トヨタ自動車株式会社環境 部	A4 87P 日本語 2005.7 発行
トヨタ車体株式会社 環境・社会報告書 2005	2005	トヨタ車体株式会社環境部	A4 58P 日本語 2005.6 発行
アイカ工業株式会社 社会環境報告書 2005	2005	アイカ工業株式会社	A4 38P 日本語 2005.7 発行
株式会社 INAX グリーン購入法 特定調達商品リスト	2004	株式会社 INAX	A4 9P 日本語 2004.7 発行
株式会社 INAX NAX Corporate Report 2005	2005	株式会社 INAX	A4 52P 日本語 2005.6 発行
株式会社 INAX CO.CO.CHI	2003	株式会社 INAX	A4 17P 日本語 2003.6 発行
株式会社 INAX INAXのエコブック	2005	株式会社 INAX	A4 19P 日本語 2005.8 発行
日経 BP 社 日経エコロジー June 2005	2005	日経 BP 社	A4 126P 日本語 2005.5 発行
あいち地球温暖化防止戦略	2004	愛知県環境部 大気環境課規制グループ	A4 89P 日本語 2005.1 発行
あいち地球温暖化防止戦略 概要版	2004	愛知県環境部 大気環境課規制グループ	A4 11P 日本語 2005.1 発行
太平洋沿岸リレーシンポジウム・名古屋 ～くらしと緑を防災につなげる試み～ 名古屋の避難対策は万全か？	2005	NPO 法人日本公開庭園機構	A4 1P 日本語 2005 発行
特定非営利活動法人 水とみどりを愛する会		特定非営利活動法人 水とみどりを愛する会	1/3A4 1P 日本語
森への招待状	2004	中部電力株式会社環境部	A4 12P 日本語 2004.6 発行
環境社会報告書 2005	2005	株式会社デンソー	A4 72P 日本語 2005.9 発行

(4) その他の業務

- ① 利用規則の作成

環境省中部環境パートナーシップオフィス利用規則

環境省中部地方環境事務所
特定非営利活動法人 ボランティアネイバース

(趣旨)

第1条 「環境省中部環境パートナーシップオフィス利用規則」(以下「利用規則」という)は、中部環境パートナーシップオフィス(以下「(EPO 中部)」という)を利用する方に、環境パートナーシップに関する情報提供、意見交換や実践の場を提供をするため、又、中部地区の環境パートナーシップ活動の支援拠点として、様々な主体及び活動を行っている方の訪問を受入れるため、必要な事項を定めます。

(基本ルール)

第2条 EPO中部の利用に当たっては、以下のルールを定めます。

- ①原則として、利用時間は10:00~19:00までとします。
- ②原則として、毎週日曜日及び月曜日、祝日、年末年始を休館とします。
- ③飲酒を主目的とした利用は禁止します。
- ④終日禁煙とします。
- ⑤利用後は、原則として現状復帰し、ごみは各自持ち帰ってください。
- ⑥その他、昼寝等の排他的な利用は禁止します。

(施設利用)

第3条

①フリースペース

環境に関するミーティングや資料などの閲覧スペースとしてどなたでも利用いただけます。利用の際の申し込み手続きは必要ありません。

②書籍・資料の閲覧

環境に関する書籍・資料が閲覧できます。書籍・資料の貸し出しは原則的には行いません。

③相談業務

環境問題や環境パートナーシップなどに関する相談・問い合わせに対応するスタッフを配置しています。

④企画展示

施設内にて、随時テーマを入れ替えながら企画展示を行います。環境に関連した展示の申し込みを受け付けます。

(禁止事項)

第4条 次の行為は原則として禁止します。

- ① 寄付金品の募集、サービス・物品の販売、飲食物の販売・提供を行うこと
- ② 広告などを掲出し、又は頒布すること
- ③ 参加費を徴収すること

(免責事項)

第5条 EPO中部の利用に当たり生じた事故等については以下のとおり取り扱うものとします。

- ① EPO中部は、その利用にともなって生じた事故や盗難等に関して、一切責任を負いません。各自で備品の管理を行ってください。
- ② 利用者の過失等により施設や物品に事故や破損等が生じた場合は、直ちにスタッフに連絡のうえ、その指示に従ってください。

(その他)

第6条 その他、EPO中部の利用に関して不明な点は、スタッフに問い合わせ、その指示に従ってください。

【附 則】

この規則は、平成17年9月1日より施行します。

② オープニングイベントの企画およびゲスト調整

●企画名：環境省中部地方環境事務所・中部環境パートナーシップオフィス

「パートナーシップがつくる持続可能な地域社会」オープン記念フォーラム

●企画趣旨

中部地区環境事務所と中部環境パートナーシップオフィスの開設、役割をPRする。
中部7県で活動している団体の状況を知る。

第1部：中部地方環境事務所と中部環境パートナーシップオフィスの開設趣旨の説明及び業務紹介

第2部：「環境パートナーシップがつくる持続可能な地域社会」をテーマとして、地域で活動している市民・NPO、企業、行政の方々によるパネルディスカッション

第3部：中部7県で活躍しているNPOのパートナーシップ活動報告。さらに真のパートナーシップを築くための条件、課題を見出す。EPO中部への期待を抽出する。

テーマ ①パートナーシップ事例報告

②パートナーシップを築くための条件と課題

③EPO中部への期待の抽出

*行政・企業の方の声を引き出すような場面もつくる

第4部：参加していた方々の交流および情報交換

●企画概要

日時：2005年11月2日（水） 14：00～17：45（13：30開場）

18：00～19：00

*EPO中部にて簡単な軽食付懇親会（参加費徴収）

場所：愛知県東大手庁舎（名古屋市中区三の丸）

あいちNPOプラザ（A）第1・2部

あいちNPOプラザ（C）第3部

EPO中部（第4部）

参加者数：80名

主催：環境省中部地方環境事務所、中部環境パートナーシップオフィス

参加費：無料（第4部のみ徴収）

●運営スタッフ：中部環境パートナーシップオフィス 6名

●呼びかけ先

行政：中部管区行政評価局・東海総合通信局・東海農政局・中部森林管理局名古屋事務所・中部経済産業局・中部地方整備局・中部運輸局・名古屋地方気象台・環境省等
各県・自治体環境部署

環境学習センター・環境情報センター

NPO・ボランティアセンター

企業：環境パートナーシップ・CLUB(EPOC)・企業ネットワークみえ・中部経済同友会・中

部経済連合会, 中小企業同友会・ほか各企業
 市民・NPO(あいちNPOパートナーシップガイドブック掲載団体等)
 環境カウンセラー協会(各県)・NPO中間支援団体検討会議メンバー・藤前干潟を守る会・みえ環境創造リーグ・ほか一般市民
 学生：損保ジャパンインターンシップ・ASEED JAPAN・名古屋産業大学学生ほか
 環境関連メーリングリスト

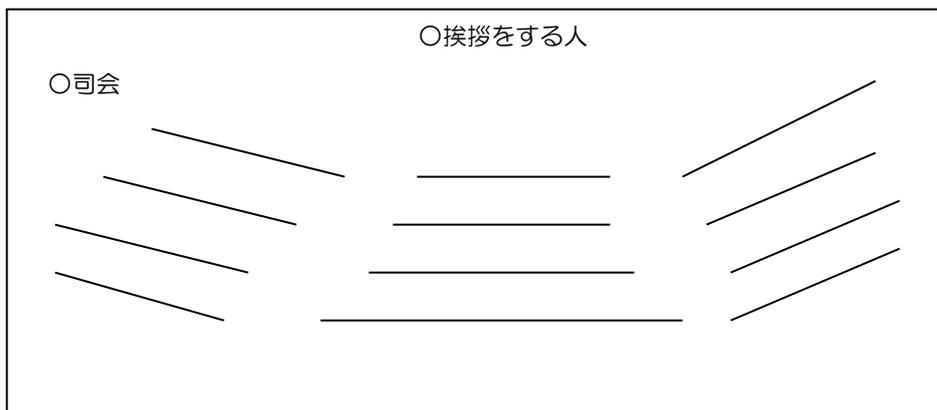
●企画内容

第1部 オープニングセレモニー：あいさつ(開設趣旨の説明及び業務紹介)

(14:00~14:30 30分)

- ・中部地方環境事務所の紹介(環境省中部地方環境事務所長) 15分
- ・EPO中部の紹介(検討会での議論等から設置に至る経緯)(千頭聡氏) 15分

会場レイアウト



第2部 パネルディスカッション(14:30-15:30 60分)

テーマ：「パートナーシップがつくる持続可能な地域社会」

パネリスト 稲垣 隆司氏(愛知県環境部長)

(五十音順) ○○○○氏(○○○○○○○○○○)

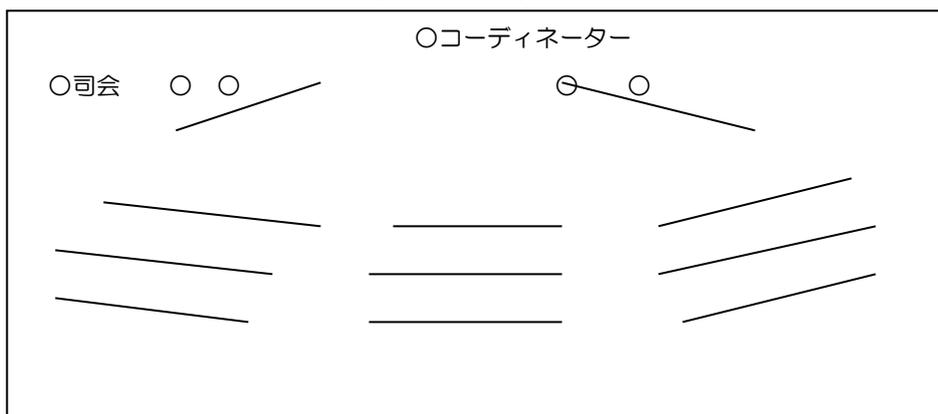
○○○○氏(○○○○○○○○○○)

千頭 聡氏(中部環境パートナーシップオフィス運営検討会座長)

コーディネーター 上原 裕雄氏(環境省中部地方環境事務所長)

進行方法 各パネリストから10分程度それぞれの活動状況について発表後、ディスカッション

会場レイアウト



第3部 パートナーシップ・ラウンドトーク（15：45～17：45 120分）

NPO 奥山哲也さん（みえ環境創造リーグ）未定

（五十音順） 戸田修史郎さん（いしかわ環境パートナーシップ県民会議）：未定

辻英之さん（特定非営利活動法人グリーンウッド自然体験教育センター事務局長）

辻子裕二さん（特定非営利活動法人エコプラザさばえ）：未定

萩原喜之さん（特定非営利活動法人地域の未来・志援センター代表理事）

原田敏之さん（特定非営利活動法人穂の国森づくりの会事務局長）：未定

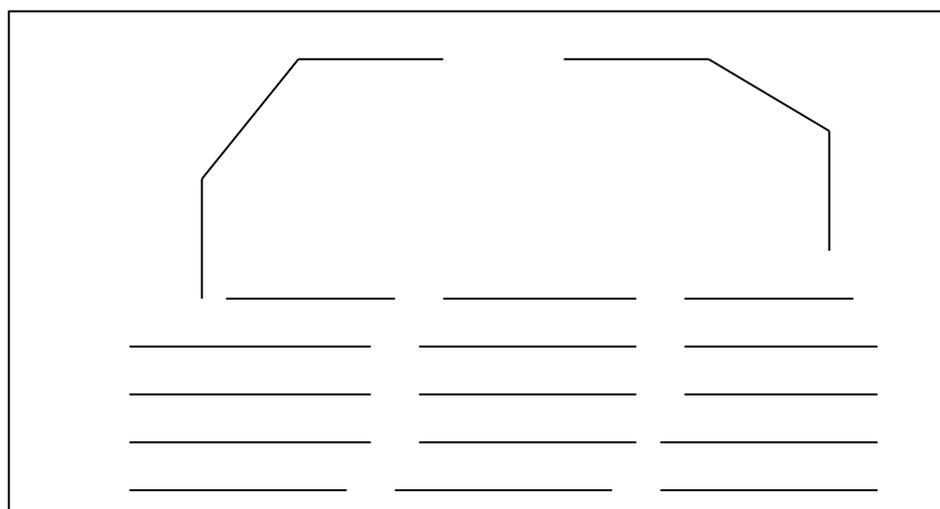
本田恭子さん（環境教育ネットワークとやまエコ広場代表）

三浦嘉門さん（特定非営利活動法人メタセコイヤの森の仲間たち代表理事）

行政 中部7県及び名古屋市の環境担当部局担当者を予定

コーディネーター 川村研治さん（地球環境パートナーシッププラザスタッフ）

会場レイアウト



第4部 懇親会

EPO中部での簡単な軽食を交えての名刺交換会

参加される方には（ゲストも含め）、希望により活動の紹介資料を持参していただき、情報交換に活用していただく。参加者は、マイはし・マイコップ持参

③ 施設整備の検討

現在、EPO 中部の施設内は事務所スペースと閲覧フリースペースの大きく二つに分かれる。入り口を入った左手には書棚とディスプレイラックが各々1 個ずつ備え付けられており、書棚には白書類、ディスプレイラックにはパンフレットが置いてある。収まりきらないパンフレットについては窓辺に平置きに並べている。スペースの真ん中には2 本の机を二つあわせた机があり、事務的な椅子が置いてある。廊下側の壁には環境省のパネルが掛けてある。その他、受付の机と3つの擬似緑の植木鉢がある。

この来館者スペース整備の検討をおこなっている。整備計画の要点は以下である。

- 1) 資料を見つけやすく展示し、また読みやすい場所をつくる
- 2) 今後増えていく資料の効率のよい収納スペースの確保する
- 3) わかりやすく「環境」を学べ、参加型で学べる企画展示のスペースを設ける
- 4) 地元の素材を生かし、中部地方のオリジナルな雰囲気をつくる
- 5) 来館者の声が反映され交流が深まるように配慮する

具体的には、新しく入れる設備として

- * 地元の木を生かした本棚および展示台の作製
- * 収納付き可動式ベンチおよびオリジナル木製の椅子
- * ハンズオンの展示スペース（CDラジカセなど含む）
- * EPO 中部および中部7 県の看板もしくは垂れ幕
- * メッセージボード

を考えている。以上が現段階で検討しているものである。

所見

EPO中部の運営業務を受託し、1 か月が過ぎた。業務としては、EPO中部を広報するための媒体製作が主であった。リーフレットは、表紙の一人の人間がページをめくるたびに増えていき、多様な人々、動物が存在する、つながりあうイメージで作成した。HPも、明るいイメージづくりに心がけた。今後はこの媒体を十分に活用して、多くの方に、施設およびEPO中部が提供するプログラムに参加していただけるようにすすめていきたい。

また、ホームページ・リンク集を作成するにあたり、行政の方とのコミュニケーションを図ることができた。また、オープニング記念フォーラムの企画をすすめる過程で中部7県のNPO団体の方々にEPO中部の存在をアピールすることができた。

最近、企業の方のお問い合わせが多く、愛・地球博の影響もあってか、「市民参加」「NPO」の情報を求める方が多い。NPOとどのような協働事業をすすめたらよいのか、などの質問も受けるので、企業とNPOの「環境パートナーシップ事例」を把握する作業が急務だと感じている。企業の方と11月頃から「環境報告書を読む会」をスタートしたいとも考えている。

上記のように、少しずつではあるが、つながりをつくり、「環境パートナーシップ事業」を生み出す動きの種をまいている状況である。

課題としては、まだ資料が十分ではないことである。とくに「環境パートナーシップ」に関するものが少ないので、その点を留意し、情報を収集していく。

また、EPO中部の運営について議論する運営委員会をどう組織化するかという点も早急に取り組む必要がある。

「環境パートナーシップ」が地域社会に非常に求められているが、実際の地域活動にはなかなか活かされていないのが現状である。だからこそ、EPO中部への期待はかなり高いと感じている。地域のニーズをていねいにヒアリングしながら、地域に必要な業務を展開していく。

本報告書は、古紙配合率 100%、白色度 70 の再生紙を使用しています。